

## 平成 16 年度 事業報告書

(平成 16 年 4 月 1 日から平成 17 年 3 月 31 日まで)

### 【実施方針】

- 1 生涯学習関連機関との連携、ネットワークを構築することを通して、市民ニーズを踏まえた事業展開を図る。
- 2 市民参画を進め、市民による市民のための学習活動を支援する。
- 3 財団が有する専門性・柔軟性を活かしながら、効率的・効果的な事業運営を行う。

### 【事業報告】

#### 1 **学習機会提供事業**

(寄附行為第 4 条第 1 号に掲げる事業)

(目的) 施設機能を有効に活用することにより、市内の関係機関及びサークル・団体との連携を図りながら、市民の多様化した学習ニーズに対応した機会を提供する。

(効果) 学習機会の質的・量的拡充が図られることにより、受講者層が拡大し、市民の生きがいづくり、社会参加が促進された。

(支出額) 7,661,625 円

## (1) さっぽろ市民カレッジ(文化・教養系)

年3期(平成16年5～8月、9～12月、平成17年1～3月)、15歳以上の市民(高校生を除く)及び市内勤務者を対象に、学習活動のきっかけづくりとして趣味・実用的内容の講座から、現代的課題(社会の急激な変化に対応し、人間性豊かな生活を営むために人々が学習する必要がある課題)の解決に関わる講座まで、幅広い分野で実施した。

なお、さっぽろ市民カレッジ(後掲受託事業分を含む。)では、取得単位数に基づき、「学士号」(50単位)、「修士号」(80単位)、「博士号」(120単位)を認定する評価システムを実施しており、今年度は新たに17名が学位を取得した。

### 【実績】79講座

受講者数2,187名/修了者数1,983名(総定員2,682名)

学位取得者:「学士号」9名、「修士号」4名、「博士号」4名

学位取得者累計:「学士号」23名、「修士号」9名、「博士号」6名

## (2) 生涯学習センター施設機能活用事業

### ア 舞台操作技術講座

平成16年6～7月、市民を対象に、基礎レベルの舞台操作技術の習得及び施設利用の促進を目的とした講座を実施した(8日間)。

【実績】受講者数25名(定員30名)

### イ バーチャルスタジオを使ってみよう

平成17年3月、バーチャルスタジオの特性を学ぶとともに、デジタル編集技術の習得を目的とした講習会を、市民を対象に開催した(2日間)。

【実績】受講者数3名(定員20名)

### ウ 音楽スタジオ技術講習会

平成16年10～11月、市民を対象に、音楽スタジオを使ったCD作成に必要な基礎的な知識習得及び施設利用の促進を目的とした講習会を実施した(6日間)。

【実績】受講者数10名(定員10名)

### エ バックステージツアー

平成17年2月、親子を対象に、普段はあまり見ることのできない「ちえりあホール」の舞台裏の見学や舞台設備の操作を体験する機会を提供した(1日間)。

【実績】参加者数7組14名(定員18組36名)

### (3) 視聴覚学習機会提供事業

#### ア オペラシアター

年4回(平成16年5月、9月、12月、平成17年3月)視聴覚センターが保有する音楽資料等の利用促進を図るために、視聴覚センターが所蔵している映像教材(LD、DVD)を活用した質の高い芸術の魅力を学ぶ機会として、ちえりあホールにおいてオペラシアターを開催した。

【実績】受講者数848名(総定員1,744名、各回定員436名)

#### イ 16ミリ映写機操作技術講習会

年4回(平成16年5月、8月、11月、平成17年2月)15歳以上の市民(高校生を除く)及び市内勤務者を対象に、各種学習活動や地域活動において16ミリ映画を利用し学習効果を高めてもらうことを目的として、16ミリ映写機操作技術講習会を開催した(各回1日間)。

【実績】受講者数57名(総定員80名、各回定員20名)

### (4) 青少年科学館学習機会提供事業

#### ア 宇宙セミナー

平成17年2月に、宇宙科学に携わる研究者を迎え、市民を対象に講演会を開催した。

【実績】受講者数41名(定員200名)

#### イ 星空の歩き方

青少年科学館の天体観測機器やプラネタリウムを活用しながら、宇宙・天文についての知識を深めるための講座(年3回各6日)を開催した。

【実績】1回目 受講者数28名(定員30名)

2回目 受講者数24名(定員30名)(「星空そぞる歩き」という名称で、生涯学習センターとの共同事業として実施・詳細5ページ参照)

3回目 受講者数27名(定員30名)

#### ウ 地域子ども教室(ジュニアサイエンス広場)

全国科学系博物館等における地域子ども教室推進事業運営協議会の委託を受け、平成16年12月より、子どもの居場所づくりとして、小中学生を対象とした実験教室及び工作教室を実施した。

【実績】実施講座回数26回 参加者数563名

## (5) 共催事業

### ア ジュニア・ウィークエンドセミナー（共催：札幌市教育委員会）

主に小学校高学年及び中学生を対象に、平成 14 年 4 月からの完全学校週 5 日制に併せて、週末の土曜日を親子で有意義に過ごすための学習機会として、施設機能を活かした講座を実施した。

#### (ア) 札幌市生涯学習センター

生涯学習センターでは、「親子クッキング教室」、「親子パソコン教室」、「親子で手作りおもちゃ教室」を各 10 回、開催した。

##### 【実績】

親子クッキング教室	受講者数 230 名（総定員 240 名、各回定員 24 名）
親子パソコン教室	受講者数 250 名（総定員 300 名、各回定員 30 名）
親子で手作りおもちゃ教室	受講者数 140 名（総定員 200 名、各回定員 20 名）

#### (イ) 札幌市青少年科学館

青少年科学館では、「雪の結晶や氷を作ってみよう」、「電流と磁石」等の科学教室（8 回）と天体観望会（2 回）を開催した。

【実績】科学教室 受講者数 84 名（総定員 256 名、各回定員 32 名）

天体観望会 参加者数 15 名

## (6) 生涯学習センター・青少年科学館共同事業（新規）

### ア おとなと子供の科学教室

生涯学習センターと青少年科学館が、これまで蓄積したノウハウを有効に活用し、大人と子供が一緒に楽しみながら学ぶ機会を提供するため、平成 16 年 9 月（1 回）、10 月（2 回）の計 3 回、生涯学習センターを会場に開催した。

【実績】音の科学 受講者数 12 組 27 名

明かそう！大空を駆けるしくみ（1 回目） 受講者数 11 組 22 名

明かそう！大空を駆けるしくみ（2 回目） 受講者数 13 組 26 名

### イ 流れ星を見よう '04

平成 16 年 8 月に、（財）北海道森林整備公社と共催で道民の森を会場に、都会では得られない満天の星空の下で、流星の観測方法の解説を交えた天体観望会を行った。生涯学習センターが、さっぽろ市民カレッジの実施で培ってきたノウハウを活かして主に広報、参加者の募集等を担当し、青少年科学館が主に観望会の当日の運営を担当することで連携して効率的に事業を展開した。

【実績】参加者数 130 名

## ウ ちえりあフェスティバル（共同事業分）

生涯学習センターと青少年科学館が、両施設の持つ専門性の高いノウハウを有効に活用するため、共同事業として平成 16 年 8 月、ちえりあフェスティバルにおいて 2 つの事業を実施した。

(ア) 天文車「オリオン 2 世号」と一緒に星空をみよう！

【実績】参加者数 約 90 名

(イ) 科学に親しもう！

「おもしろ音のサイエンス」

「空飛ぶ不思議を体験しよう！」

「チャレンジしよう！君はどれだけできるかな？」

【実績】参加者数 約 250 名

## エ 星空そぞろ歩き

青少年科学館で年 3 回（平成 16 年 5 ～ 7 月、9 ～ 11 月、平成 17 年 1 ～ 3 月）実施されている「星空の歩き方」のうちの 2 回目を「星空そぞろ歩き」という名称に変え、青少年科学館と距離的に離れている西区近辺の市民を対象に、天文にまつわる雑学を交えながら基本的な天文知識を解説し、学習する機会を提供するために、生涯学習センターを会場として実施した。

【実績】受講者数 24 名（定員 30 名）

## 2 人材活用育成事業

（寄附行為第 4 条第 2 号に掲げる事業）

（目的） 市内の関係機関及びサークル・団体との連携を図りながら、学習活動を通じた市民活動及びまちづくり活動を担うことのできる人材を育成する。

（効果） 学習活動を通して人材を育成し、その人材が活躍することにより、学習活動  
学習成果の還元 さらなる学習活動、といった学習活動の質的・量的拡充が図られ、結果として、ボランティア等による市民活動及びまちづくり活動の活性化が図られた。

（支出額） 148,770 円

### (1) 生涯学習ボランティア育成事業

市民の生涯学習を支える「ちえりあ学習ボランティア」に対して、定例会（毎月1回）等を通じ、講座企画や組織運営について助言や指導を行い、ボランティアとしての資質向上に努めた。

また、「さっぽろ市民カレッジ」における6講座をボランティア活動の実践の場として提供した。

平成16年6月、平成17年3月には、講座事業の企画・運営に関わる知識・技術を中心に、札幌における生涯学習活動を推進する際に必要な技術・心構えを学び、その成果をボランティア活動として生かすことを目的として、生涯学習ボランティア研修会を開催した。

【実績】ちえりあ学習ボランティア登録者数39名 / 定例会参加者数延べ333名

(1) 研修会参加者25名(6月) (2) 研修会参加者30名(3月)

### (2) 学習指導者育成事業

平成16年11月に、区民センターや地区センター等の市民への生涯学習活動を支援する施設職員の他に、新たに各区役所・まちづくりセンター職員にまで対象を拡大し、これからのまちづくりに不可欠な、市民に対するコミュニケーションのスキルアップを目的として、生涯学習とまちづくりの視点に立ち、地域住民の学習活動及びまちづくりを支援する職員の資質向上と育成を図るための研修会を実施した。

【実績】参加者数40名(総定員80名、各回定員40名)

## 3 学習活動支援事業

(寄附行為第4条第3号に掲げる事業)

(目的) 市内の関係機関及びサークル・団体との連携を図りながら、情報収集・提供をはじめとして、市民の自主的活動や連携・交流活動を支援する。

(効果) 学習活動にこれまでかかわってこなかった市民に対しては、きっかけづくりを提供し、学習活動を行ってきた市民に対しては、これまでの学習成果を活かす場を提供することができ、生涯学習活動の底辺が広がった。

(支出額) 5,398,055円

## (1) 生涯学習普及啓発事業

### ア ちえりあフェスティバル

平成 16 年 8 月、生涯学習のさらなる普及啓発を目的として、生涯学習総合センターを会場にちえりあフェスティバルを 3 日間に渡って開催した。

#### (ア) 生涯学習センター主催行事

アコースティックギター奏者の谷本光氏(札幌出身)による音楽会やさっぽる市民カレッジ体験講座、サークル体験教室のほか、サークル発表会を実施した。

#### (イ) 青少年センター主催行事

青年スタッフが企画・運営を行い、屋外ではステージ発表や屋台などのイベント、屋内では子どもを対象としたゲーム大会などを実施した。

#### (ウ) 教育センター主催行事

シェフ<sup>みくにきよみ</sup>三國清三氏による講演会と親子を対象にしたイベントを実施した。

#### (エ) リサイクルプラザ主催行事

ごみ減量をテーマに、リサイクル傘販売、廃食油の石けん作りなどを実施した。

#### (オ) 各施設連携行事

各施設の特徴を活かしながら複合施設としての一体感を出すため、各施設が連携して食器洗浄車の実演やコミュニティFM4局による公開生放送を行った。

【実績】3日間延べ参加者数 13,879 名

〔内訳：生涯学習センター関係 6,835 名 / 青少年センター関係 4,700 名〕 / 教育センター関係 390 名 / リサイクルプラザ関係 750 名 / その他 1,204 名〕

## (2) ボランティア活動・サークル活動促進事業

市民にとっての学習の場を広げるとともに、継続した活動の場を提供するため、生涯学習センターにおけるボランティア及びサークルの活動を支援した。また、昨年発行し好評であった「ちえりあサークルガイド」の第 2 版を作成し、サークル活動のさらなる普及啓発に努めた。

【実績】3,000 部

## (3) 共催事業

### ア 札幌市中学校科学クラブ研究発表会(共催：札幌市中学校文化連盟)

平成 16 年 11 月に、市内中学校の科学クラブを対象に、視聴覚機器を利用した科学研究の活動発表会を開催した。

【実績】参加校数 12 校 122 名

**イ 科学技術週間事業「科学映画会」(共催：日本科学技術振興事業団)**

平成 16 年 5 月に、科学技術週間協賛事業として科学技術映像祭の入選作品を上映した。

【実績】入場者数 577 名

**ウ 青少年のための科学の祭典札幌大会(共催：日本科学技術振興財団、北海道科学の祭典実行委員会、科学技術館、北海道新聞社)**

平成 16 年 9 月に、サイエンスショーなどを織り交ぜた内容で出店形式による実験や工作を行った。

【実績】参加者数 1,165 名

**エ 日本惑星科学会総会(共催：日本惑星科学会)**

平成 16 年 10 月に、日本惑星科学会の会議及び講演会・展示を行った。

【実績】入場者数 480 名

**オ 札幌市中学校校内放送コンテスト(共催：札幌市中学校放送教育研究会)**

平成 16 年 7 月に、札幌市内の中学校の校内放送局員が制作した放送番組と各放送局で活動するアナウンサーの放送コンテストを開催した。

【実績】参加校数：9 校 58 名

**カ 札幌市中学校校内放送技術講習会(共催：札幌市中学校放送教育研究会)**

平成 16 年 8 月、札幌市内にある中学校の校内放送局員の技術向上を図るために開催した。

【実績】参加校数：11 校 67 名

**キ 日本映画名作祭 2004(共催：札幌映画サークル)**

東京国立近代美術館フィルムセンターから、同センターが保有する貴重な日本映画フィルムの提供を受け、現在では劇場公開されることの少ない日本映画の名作 4 作品(「西鶴一代女」「近松物語」「王将」「弁天小僧」)を平成 16 年 10 月 7 日～10 月 9 日の 3 日間に渡り、上映した。札幌映画サークルと協力・連携し、両者による実行委員会形式で実施した。

【実績】入場者数 788 名

**(4) 生涯学習情報誌の発行**

生涯学習関連施設及び団体が札幌市内及び近郊で実施している講座等の学習機会の情報を一冊にまとめ、年 3 回(4 月、8 月、12 月)発行した。

【実績】各回 8,000 部(年間 24,000 部)

#### (5) 学習相談事業

日々の学習活動で生じる問題等について、学習相談員を配置し、来館・電話・ホームページによる相談に幅広く対応した。

【実績】相談件数 1,254 件

(内訳：面談 848 件、電話 364 件、メール・その他 42 件)

#### (6) 視聴覚教材利用促進事業

年 6 回(平成 16 年 4 月、6 月、7 月、10 月、平成 17 年 1 月、2 月) 視聴覚センター所有の 16 ミリフィルムを活用した映画試写会及び親子映画会を開催した。

【実績】入場者数 2,303 名(総定員 2,616 名、各回定員 436 名)

### 4 調査研究事業

(寄附行為第 4 条第 4 号に掲げる事業)

(目的) 市民の学習ニーズに対応した生涯学習事業のあり方について調査研究する。

(効果) 財団が有する専門性を駆使しながら行った調査研究を、財団実施事業の内容改善に活かすことにより、事業参加者の拡大につながった。

(支出額) 387,090 円

#### (1) 生涯学習に係る調査研究

自らが主体的に情報発信を行い、地域のまちづくり活動に係る市民の育成に関して、生涯学習の観点から、当財団の役割について調査研究を進めた。

##### ア さっぽろ市民カレッジにおける学習成果活用状況の調査研究

過去のさっぽろ市民カレッジにおけるホームページ作成関連講座の受講経験者(383 名)を対象に、さっぽろ市民カレッジにおける学習の成果がまちづくりにつながるための仕組みを検証し、今後の講座企画・運営につなげるためにアンケート調査を実施した。

## イ 市民主体のメディアの担い手（市民ディレクター）に関する調査研究

マスメディアによるのではなく、市民自らが地域に密着した情報を取材・編集して社会に向けて発信し、まちづくりに主体的に寄与していくために、新しい取組として「市民主体のメディア」の担い手（市民ディレクター）を育成することが考えられる。

今後、そのような活動を支援していくために、その前段として、さっぽろ市民カレッジの中で、視聴覚センターとの連携により試行的に講座を実施し、その成果を分析・検証した結果について報告書にまとめた。

### （２） 科学技術に関する資料の収集

解説の基礎資料、展示物及び展示の改良に資するため、市販の出版物や他施設における発行物等を収集した。

### （３） 天文資料の収集

インターネット画像、市販の出版物及び他施設における発行物の収集に加え、科学館天文台、札幌市天文台及び移動天文車を活用して天体写真を撮影した。

## 5 **さっぽろ市民カレッジ（受託事業）**

（寄附行為第4条第5号に掲げる事業）

### （１） さっぽろ市民カレッジ（市民活動系、産業・ビジネス系）

札幌市からの委託により、年3期（平成16年5～8月、9～12月、平成17年1～3月）、15歳以上の市民（高校生を除く）及び市内勤務者を対象に、リカレント教育を中心とした段階的・継続的な学習機会の提供を目的とする講座を開催した。

身近にまちづくりを考えるための講座や人形と産業デザインの関係を考察する講座など、北海道大学や札幌市立高等専門学校といった高等教育機関との連携を図りながら実施した。

【実績】32講座

受講者数 537名 / 修了者数 476名（総定員 753名）

（支出額） 6,695,698円

## 6 生涯学習関連施設の管理運営（受託事業）

（寄附行為第4条第6号に掲げる事業）

### （1）札幌市青少年科学館の管理運営

札幌市からの委託により、科学技術に関する学習機会や体験機会の提供を目的として、札幌市青少年科学館の管理運営を行った。

（展示事業の管理運営、プラネタリウムの管理運営、企画特別展の開催、常設イベントや体験イベントの開催）

（支出額） 471,275,312 円

### ア 展示事業の運営

#### （ア）常設展示

展示物を「見て」、「触れて」、現象を「考えてみる」ことができるよう、宇宙北方圏 原理・応用 マルチメディア のテーマを主とし、より強い印象が残り、理解しやすい展示物の整備を行った。

平成16年度は新たに二足歩行ロボットやフライトシュミレーターを設置した。

#### （イ）実演展示・実験等

来館者が科学や科学技術について理解を深められるよう、サイエンスショーやテレビスタジオなど、解説を交えながらの参加形式による実演等を行った。

また、来館者が多い日曜・祝日に、科学に親しみやすい実験や工作会を行った。

サイエンスショー	<p>化学・物理系実験を解説員が実演し、科学の不思議さや楽しさを伝え、科学への関心を高めるため、延べ724回実施した。</p> <p>【実績】観覧者数 18,438 名</p> <p>題材：4月～6月「科学の箱船で光を見つけよう」 7月～10月「身近で起こる、化学反応～ふしぎふしぎ、色が変わる～」 11月～2月「液体の空気？ - 200 の世界」 3月 「しゃぼん玉パワー～表面張力の秘密～」</p>
ちょびっとサイエンス	<p>科学への関心を高めるため、解説員やボランティア職員とのコミュニケーションを通して、簡単な実験、科学の楽しさを伝えた。</p>
実演展示 （テレビスタジオ、人工降雪装置、低温展示室）	<p>装置の動きや模型展示の仕組みでは伝わりにくい科学現象を、実演や解説により紹介した。</p>

日曜実験室	<p>実験を体験することによって、子供たちの「科学する心」を養うため、延べ 65 回実施した。</p> <p>【実績】参加者数 832 名</p> <p>テーマ：4月～5月 「身近な物で電池をつくろう」          6月～9月 「覗いてみよう花の中」          10月～1月 「大空をよくとぶ秘密をさぐる」          2月～3月 「明るく灯そう、豆電球」</p>
日曜工作室	<p>工作を通して科学的動作原理、材料の利用、道具の正しい使い方等の習得と興味を喚起するため、延べ 56 回実施した。</p> <p>【実績】参加者数 2,483 名</p> <p>4月～7月上旬 「ゴム動力ヘリコプター」          「ゴム動力ペットカー」          7月中旬～11月 「ペット万華鏡」          「ゴム動力ヘリヘリコプター」          12月～3月 「なかよしスケーター」          「ペットぜんまいカー」</p>
気象講座	<p>気象学の啓発を図るため、平成 16 年 7 月に日本気象学会北海道支部との共催により、身近な気象現象や話題性のあるテーマについて、専門の講師が最新の研究・情報をわかりやすく紹介した。</p> <p>【実績】受講者数 23 名</p> <p>テーマ： 海洋の雪（マリンスノー）と将来の気候          身近な天気～キャスターの目を通して～          21 世紀の地球温暖化と気象の異変          宇宙の雪と塵</p>
親子科学教室	<p>平成 16 年 11 月に、親子のコミュニケーションとマルチメディアや実験を通して科学への興味・創造力の向上を目的とした教室を開催した。</p> <p>【実績】受講者数 18 組</p>
移動科学館	<p>教育普及活動の積極的な展開を図るため、来館が困難な養護施設などで科学教室を開催した。</p> <p>【実績】13 回 受講者数 747 名</p>

## イ 天文事業の運営

身近なところで天文に親しむ「場」を設定し、天文に関する基礎知識から最新の情報までを提供するとともに、市民の天文に対する興味・関心を高めるため、プラネタリウムや移動天文車等を活用しながら各種天文事業を実施した。

また、投影内容及び観覧環境の充実を図るため、平成 16 年 10 月～平成 17 年 4 月までプラネタリウムを休演し、改修工事を行った。

(ア) プラネタリウム投影事業

一般投影	<p>天候や時間に関係なく星空を投影できるプラネタリウムを使って、星や星座を知る機会、天文学の初歩から最新情報までを学習する機会を提供した。</p> <p>【実績】観覧者数 50,803名 / 投影回数 761回</p>
学習投影	<p>小中学校を対象に、理科授業の一環として実施した。学校の授業では理解することの難しい天体の動き、街中では見ることのできない満天の星空を疑似体験することで、天文への興味関心を喚起した。</p> <p>【実績】観覧者数 市内小学校 183校 / 15,715名 市内中学校 3校 / 260名 投影回数 95回</p>
夜間特別投影	<p>季節あるいは新しい天文的話題をテーマとし、通常よりも掘り下げた内容の投影を行うとともに、通常の投影時間では鑑賞できない人びとへの機会の提供のため6回実施した。</p> <p>【実績】観覧者数 965名 / 投影回数 6回</p>

(イ) 天体観望事業

天体観望会	<p>プラネタリウム夜間特別投影に併せて、科学館駐車場において一般市民を対象に移動天文車を使った観望会を行った。</p> <p>【実績】来場者数 596名 / 実施回数 6回</p>
(臨時)天体観望会	<p>ニート彗星接近(平成16年5月)、金星太陽面通過(平成16年6月)、部分日食(平成16年10月)の各天文イベントに合わせて臨時観望会を行った。</p> <p>【実績】来場者数 387名 / 実施回数 3回</p>
移動天文台	<p>天文台を利用する機会の少ない市民に、自分達の住む地域で気軽に天体観望する機会を提供するため、移動天文車により各地へ出向き、天体観望を行った。</p> <p>【実績】参加者数 2,534名 / 実施回数 25回</p>
札幌市天文台夜間公開	<p>多くの市民に天体観望の機会を提供し、天文に対する興味・関心を高め、科学への夢を育むため、夜間の公開を行った。</p> <p>【実績】利用者数 639名 / 実施回数 11回</p>
西岡天文台夜間公開	<p>市民の天文に対する興味・関心を高めるため、一般公開することを条件に市民から寄付された西岡天文台において夜間公開を実施した。</p> <p>【実績】利用者数 7名 / 実施回数 1回</p>
さっぽろ星まつり	<p>札幌市公園緑化協会との共催で公園利用事業の一つとして天体観望事業を実施し、市民の天文に対する興味・関心を深めるため、モエレ沼公園において平成16年9月に2日間実施した。</p> <p>【実績】入場者数 2,300名</p>

(ウ) 「宇宙の日」関連事業

作文・絵画コンテスト	「宇宙の日(9月12日)」を記念して、日本宇宙フォーラムとの共催により市内小中学生から宇宙に関する作文・絵画を募集し、展示・表彰した。 【応募数】作文 小学生 49名、中学生 1名 絵画 小学生 259名、中学生 14名
------------	--

(I) 教室・講座

天文教室	天体に接する機会の少ない市民に、天文の基礎的な学習機会と実際の星空を観望する機会を提供し、天文学に対する興味・関心を高めるため、5回実施した。 中高齢者のための天文教室(2日で1コース) 【実績】参加者数 1回目(平成16年6月)38名 2回目(平成16年10月)21名 親子の天体教室(1日で1コース) 「手作り天文望遠鏡で星を見よう」 【実績】参加者数 1回目 23組 48名 2回目 18組 40名 3回目 18組 39名 (各回とも平成16年7月実施)
------	---

(オ) 天文相談コーナー(星のへや)

代表的な天体望遠鏡や参考図書などを常備した天文相談コーナーを設け、天文に興味を持った人の初歩的な疑問に答えた。

【実績】開放日数 106日 / 利用者数 2,810名 / 相談者数 109名

(カ) 天文指導員研修

社会教育の一環として地域における天文普及活動を担う人材を育成するため、市内在住の大学・短大生を対象に、天文事業への参加や定期研修の実施により天文指導員を養成した。

【実績】登録者数 47名 / 研修回数 21回

(キ) 共催事業

道民の森観望会

平成16年5月・8月・10月に当別町にある道民の森と共催で、札幌市内では見られない星雲などの淡い天体を見る機会を提供した。

【実績】参加者数 1回目 73名  
2回目 130名(「流れ星を見よう'04」という名称で、生涯学習センターとの共同事業として実施・4ページ参照)  
3回目 70名

## ウ 特別展の開催

小中学校の夏休みや冬休みの期間に合わせて、特別展を開催した。

夏の特別展「おもしろ からくり・ロボット展」	
趣旨及び概要	目覚しい発展を遂げているロボットをテーマに、ロボットの原点とも言えるからくり人形から最新ロボットまでを、展示物と実演やロボットのパフォーマンスを体験するコーナーによってロボットに関わる科学技術への関心を高めることを目的に開催した。
実施期間	7月24日～8月22日(30日間)
展示構成	からくり人形実演、からくり人形体験コーナー、木・紙のからくりコーナー、からくり遊び広場、ハイテクロボットパフォーマンスショー、他
入館者数	58,345名
冬の特別展「科学チャレンジ！宝の洞窟体験」	
趣旨及び概要	洞窟をイメージしたコースの中に、実験ブース等を設置し、スタンプラリーを開催した。また、ゴール地点には、スタンプカードをロケット風船等と交換し、遊び場の設置や、修行のコーナーを設置した。
実施期間	1月5日～1月16日(12日間)
展示構成	洞窟迷路、宝の地図、透明な壁、宝の鍵、電子ブロック、暗闇の部屋、モニタージュ、修行コーナー、受付コーナー 他
入館者数	29,960名
春の特別展「音の不思議発見！～聞いて、見て、さわってみよう！～」	
趣旨及び概要	音をテーマとして、音によって起こる様々な現象を展示物・工作を通し、音の不思議な世界を体験していただいた。
実施期間	3月26日～4月3日(9日間)
展示構成	音の波、音の砂漠模様、響かない部屋、伝声管迷路、ボイスチェンジャー、パソコンクイズ、こうもり体験、工作コーナー 他
入館者数	10,992名

## (2) 札幌市生涯学習センターの管理運営

札幌市からの委託により、市民の生涯学習に関わる活動を支援することを目的として、札幌市生涯学習センターの管理運営を行った。

(支出額) 480,475,049円

## ア 貸室事業

市民の幅広い学習活動を支援するため、ちえりあホールをはじめとした各種研修室を、それぞれの活動の場として提供した。

【実績】貸室利用者数 370,569名 / 利用率 74.3%

## イ メディアプラザ運営事業

講座・サークル等の学習機会情報の提供、図書の閲覧・貸出、音楽・映像資料の視聴、インターネットによる情報検索など、市民の学習活動を支援するメディアプラザの運営を行った。

【実績】メディアプラザ利用者数 55,750 名

ちえりあニューズペーパー年 6 回（5 月から隔月 / 各 5,000 部）発行

## （3） 視聴覚センターの管理運営

札幌市からの委託により、視聴覚教育の推進、市民団体や学校等への学習支援を行うことを目的とした視聴覚センターの管理運営を行った。

（支出額） 21,210,925 円

## ア 学習教材開発事業

提供教材の充実を図るため、学校教育及び社会教育の関係者等に委託して、市販教材にはない、地域に密着した特色ある教材を制作した。

【実績】 新規製作教材数 14 本（ビデオ）

## イ 視聴覚教材貸出事業

市内の小中学校をはじめ、幼稚園や児童会館、町内会やサークル等の団体に対して、学習活動に役立つ視聴覚教材（16 ミリフィルム、ビデオ）を貸し出すとともに、新規に購入するなどして教材の充実を図った。

【実績】教材貸出数 9,881 本

購入教材数 372 本（うち 16 ミリフィルム 14 本）

現有教材数 11,111 本（うち 16 ミリフィルム 3,237 本）

## 7 **収益事業**

( 寄附行為第 4 条第 7 号に掲げる事業 )

( 収入額 ) 16,840,793 円 ( 支出額 ) 12,627,378 円

### ( 1 ) **売店・自動販売機事業 ( 札幌市青少年科学館 )**

札幌市青少年科学館の管理運営に附帯する事業として、来館者への便益提供を目的とした売店・自動販売機事業を行った。

### ( 2 ) **レストラン・自動販売機事業 ( 札幌市生涯学習センター )**

札幌市生涯学習センターの管理運営に附帯する事業として、来館者への便益提供を目的としたレストラン・自動販売機事業を行った。